

温古知新⁽³⁵⁾／菜根譚 7～1
笑顔礼讃西東

さき句会 (東京都・杉並区) 2～3
朝倉安都子 (新潟県・新潟市) 4

投稿作品 5～8

心に残つた作品 9

詠み人スクランブル

(夏休みの宿題の思い出は?) 10～11

新潟ぶらり／新潟市食育・花育センター 12

にいがた文化の記憶館便り (3) 13

食楽句楽のすすめ (3) 14

ユースあれこれ 15

歌人錦見映理子 16

8 August
Vol.81

* 「喜怒哀樂」は、文芸を楽しむ方々の活力の源を目指し
(株)ミューズ・コーポレーション 喜怒哀樂書房が隔月発行している情報誌です。

喜怒哀樂

詠み人応援マガジン
詩歌俳柳壇 ニュース

飽後、味を思えば、則ち濃淡の境^{すべ}で消え、色後、姪^{いん}を思えば、男女の見尽く絶ゆ。故に人つねに事後の悔悟^{かいご}をもって、臨事の癡迷^{ちめい}を破らば、則ち性定まりて、動くこと正しからざるはなし。

(満腹後に味を考えると、濃い薄いなどなくなり、情事の後に欲情を考えると、男だ女だという考えは消えてしまう。事後に起きる後悔が愚かな迷いと知ることで、正しく動くことが出来るのだ。)

後悔せず、無駄に時間を過ごさぬように、といふことでしょうか。

軒冕^{けんみん}の中に居りては、山林的氣味なかるべからず。林泉の下に処りては、須らく廊廟的経綸を懷くことを要すべし。

(高い地位にある時代は山林で隠居しているようないい處がなくてはならない。隠居暮らしをするようになれば、その暇を無駄にせず天下国

25項まで解説させていただきました前回。真の真心の大切さを学びました。今回は26項より!

家を收めようとする気持ちで暮すことだ。忙しいときにはゆとりを、ゆとりあるときには忙しく。バランス感覚は大事なこと。

世に処しては、必ずしも功を邀めずして、過ちなきは便ち是れ功なりとす。人に与えては徳に感ずることを求めずして、怨みなきは便是れ徳なりとす。

(世渡りは、必ずしも功績を求めず、間違いが無いことが功績とする。人に与える事が徳と思わず、恨まれないことが徳と考えるべき。)

憂勤^{うきん}は是れ美德なるも、太^{あまり}に苦しめば、則ち以つて性^{きが}に適^{よろこ}い怡^怡ばしむること無し。澹泊^{たんぱく}は是れ高風なるも、太に枯^かるれば、則ち以て人を済^{すく}い物^{もの}を利^りすること無し。

(工夫や努力をしながら働くことは素晴らしいが、度を越せば、働く楽しみが奪われてしまうだろう。拘らず、囚われず暮らすことは無欲に通じて素晴らしいが、度を越せば、人を助けたりすることも無くなってしまうだろう。)

徳を求めて与えるばかりでは、良き人生とは言えない。度を越さず、無欲に与えることを忘れてはならないということですね。

人生、バランスが大事!ということでしょうか。欲張らずに生きていけたら、素晴らしい人生が歩めるかも!?

(古川久美子)

さき句会

講師 神野紗希様

(東京都・杉並区)



去る7月1日、荻窪駅から徒歩15分の「角川庭園・幻戯山房(すぎなみ詩歌館)」にて行われた「さき句会」にお邪魔しました。指導にあたるのはNHK-BBS「俳句王国」元アシスタントとしても周知の俳人神野紗希さん。2011年9月から半年にわたり開催された「やさしい俳句教室初級」受講生が、終了後も学び続けている会です。

当日はあいにくの大雨。かなりびしょ濡れの状態にもかかわらず、皆さん「すごい雨だね」と、雨ごとき何のそのという風情で涼やかにご参集。

今日の兼題「サングラス」を含む5句提出の5句選(うち1句特選)。選句、披講、そして高得点句より各人の選評、神野さんの講評と続きます。

柿青葉使い勝手の良い湯のみ

武子

「使い勝手の良い湯のみ」がうまい。

神野：いい陽気のなか、柿青葉のつやつやした葉っぱを見て爽やかな気分になります、手には使い慣れた湯飲み。「よき湯飲み」ではなく「よい湯飲み」とした口語的表現も、肩の力が抜けた普段着のよさを感じる。手に馴染んだ湯飲みの肌まで感じられるような句。

作者：柿はちょっと斜めの家のもので、借景です(笑)。

父親となりし息子のサングラス 安栄

自分にとってはいつまでも「息子」なのに、ちょっと距離を置かれた親の感概が滲んでいる。

神野：「父親となりし息子の」が説明になりがちだが、最後にサングラスを置いたことで、堂々とした息子の姿や心境、息子も父親になつたんだなあと

いう親の気持ちまで感じられる。簡潔明瞭で、新鮮な句だ。

打水や間口小さき和菓子店 すみか
地方の代々続く和菓子店を守つてい
るというイメージ。

神野：「や」で切れて、名詞で止めるという黄金パターン。内容も勘所を押さえ、打水で風情を出している。悪くは

本日、一番の高得点から夏山や手書きのバスの時刻表 明美
1時間か2時間に1本の山の中のバス。時刻表も手書きの方が簡単なのかな／田舎のどかな雰囲気が出ていて、夏山の緑と空の雰囲気も浮かんでくる。

神野：時刻表の説明をしているだけだが、ここに住む人の姿やあたたかさが時刻表を通して伝わってくるところがすばらしい。ただ「夏山や」で田舎だということとははつきり出し過ぎたかもしれない。

夏山にありそうな大きな花や夏帽子等の季語がくると、田舎だな、山なんだなどいうことが間接的にわかる。

貝釦二つ外してラムネ飲む 香澄

香澄

非常に爽やかな句で、使われている言葉がみんなない。

神野：貝釦がきいている。貝のあつた渚のイメージが加わり、涼しげな印象を与えていた。釦を1つではなく2つ外したところも夏の開放感があり、ごくごくとラムネを飲む男性ののど仏まで見えてくる。「二つ外して」で、女性じやないことがわかる。女性だとちようどねえ(笑)。

作者：本当は夫のワイシャツの釦がとれて、やだなーと思って(笑)。

風少し木洩れ日少し淹見茶屋 安栄

安栄

涼しげでここのに行つてみた
いなーという願望。

神野：普通 夏に風少しというと暑さを感じるが、滝見茶屋とくるので標高が高く涼しいことがわかる。生い茂つて

いる葉っぱまで見え、上5と中7のリフレインが静かな夏のリズムを生み出している。

古靴の陰に稚魚をり夏の川 不蓋夫

不蓋夫

棲みかのようになっている古靴がおもしろい。

神野：芭蕉の「夏草や兵どもが夢のあと」のように、夏は様々なものが生命感にあふれる季節だが、一方で衰えてしまったものや忘れ去られてしまつたものに想いを合わせる、そういう季節。

この句はその辺りをよく押さえていて、忘れ去られた古靴はもう靴としての役割を果たしていないが、今は稚魚の隠

ないが「問口小さき和菓子店」、あるんですね。非常に完成度は高いが、類想があるのが惜しい。



▲神野紗希さんは俳句の本場
愛媛県松山市生まれ。講師
にイベントにと引っ越しだこ

笑顔ごとひっくり返し天花粉 安栄

おむつを交換すると、げらげらと笑う赤ん坊。くるつとひっくり返して天花粉をつける母親と赤子のやりとり／天花板の入れ物がひっくり返ったと思った。

神野：笑顔ごと赤ちゃんをひっくり返したというのがスタンダードな読みかと思うが、天花粉がふわっと覆うような感じが全体にある。「笑顔ごと」をよしとするか、饒舌だと思うかで票が別れる。「ひっくり返す」ではなく、「ひっくり返し」と、連用形で流しているのも、その後の動詞が想像され巧みな句。

猫二匹交番にあるパリー祭 すみか

すみか

これは犬だつたらダメで、動きがとまった油絵のようないメージ。

神野：交番は街の秩序を守っているが、パリー祭の日には猫も交番で寝そべり、交番もまた祝祭の雰囲気に包まれているということ。しかもパリ、魅力的な句。

古靴の陰に稚魚をり夏の川 不蓋夫

不蓋夫

感にあふれる季節だが、一方で衰えてしまつたものや忘れ去られてしまつたものに想いを合わせる、そういう季節。

この句はその辺りをよく押さえていて、忘れ去られた古靴はもう靴としての役割を果たしていないが、今は稚魚の隠

笑顔礼讃西東

れ家になつてゐる、といつた大きな時間の流れを感じさせる句。

ビル街の河童忌の川うす暗し 和智

龍之介の顔が浮かび、「河童忌の川うす暗し」がよくいただいた。

神野：龍之介はどこまでも都会的なイメージで、「ビル街の」が龍之介的。しかも「河童忌のビル街の川」ではなく「ビル街の河童忌の川」、この辺がうまい。忌日俳句は、その当人じゃないとその句は成り立たないというような強さがないといけない。うまくずらしつつ、その人を追悼する気持ち、忍ぶ気持ちが必要。その点、この句は鍛えられた一句。

蘆そよぐ魚籠のなまづが大あばれ 武子

なまづでこんな句ができるなんて。

ただ「なまづ」は夏、「蘆」は秋の季語で重なる。

神野：上5は「そよぐ蘆」にした方が、「降る雪や明治は遠くなりにけり」も「雪降るや」ではない。名詞で納めると、述べたい気持ちが抑えられるので、少しダラダラしていると思つたら、ひつくり返してみるのも一考。ダメという人もいるかもしれないが、蘆となまづのいる夏から秋の風景としてリアリティがある。

サングラスかけたままゐる暗き部屋 酔山

うつかり寝ていたのか、明るいところで格好をつけてかけているのか／ジャズ喫茶がはやつたころの世代かも。

神野：普通では有り得ない状況。文語であれば「かけしままゐる暗き部屋」だし、口語であれば「かけたままいる

虚飾のないありのままの墓の姿が、葬りの場面のむき出しの心を代弁する。

梅雨の蝶窓一枚をよぎりたり ひろゑ

窓一枚がすばらしいと思った。

神野：他の季節であれば、窓を開けて蝶を追いかけたくなる季節だから窓一枚では足りないが、梅雨は雨が降つたり曇つたりと外界と距離を置いている時期。その時にふと窓に目をやると梅雨の蝶がよぎつていた。距離感がまさに梅雨。

サングラス掛けて女は眠りをり 正

神野：をりがいい。「をり」は継続している状態。「けり」は眠っていたなあという完了。今まさに眠つてゐるといふ、女のなまなましさがある。

サングラス一度目の恋といふことに すみか

大人の恥じらい、含羞がにじみ出た句。神野：「二度目の恋といふことに」がおもしろい。二度目の恋をしたということではなく、これを二度目の恋ということにしよう、と。恋というものを楽しみつつ、困惑している感じが下五によく出ている。

その他入選句

正座して極見送る墓

和智

静けさと莊嚴な感じ、そこに墓をからませてゐる。

神野：「蟾蜍長子家去る由もなし」と、長男でふてぶてしく居座っている自分を詠んだ草田男の句があるが、人間と重ねて読まれることが少くないのが墓。

サングラスりゆつくに結び登る人 哲堂

直子

足萎えて見上げし杏の茜色 佐々木 琴子

やまぼうし洗濯物の翻る 美絵子



▲句会にはうつつけの会場

サングラス掛けたままゐる暗き部屋 酔山
うつかり寝ていたのか、明るいところ
で格好をつけてかけているのか／ジャズ
喫茶がはやつたころの世代かも。
神野：普通では有り得ない状況。文語
であれば「かけしままゐる暗き部屋」
だし、口語であれば「かけたままいる

捨て舟をかもめの歩く小暑かな 神野紗希さんの句
捨て舟を高みに置いて来し



▲いくつになっても瑞々しい感覚のまま！



▲神野紗希著
7月16日発刊
『30日のドリル式
初心者にやさしい俳句
の練習帳』(池田書店)
税込1350円。

朝倉安都子様

(新潟県・新潟市)

Iもうひとつの IIゆらゆらと

今年5月に詩集『私を呼ぶのは』を発行した金宝寺の僧侶、朝倉安都子さんにお話をお聞きしました。

Q 今回の詩集出版は?

今まで4冊詩集を出していて、前作からは11年。還暦もあり、ちょうどいいきっかけだと思って。作品を1枚一枚にしておくより、まとめて自分に自分で祝いをしようと。母は69歳で亡くなり、次は喜寿のお祝いができるものと思っていたのに結局は還暦のお祝いが最後に。

Q 昔から詩を?

実家もお寺。三姉妹の真ん中で家が大好きだったが、ここで守られていてはだめだ、どうしても行かなれば! と思い、大学卒業後上京。親は反対したけれど。でも希望する就職先には入

れず、昼は小さい会社で働きながら夜は日本文学学校に通った。実力をつけ、ひとかどの人間になりたいと思っていた。その入校式で、にこにこしながら「君たちをみると毎年幼稚園の生徒のように思うんだなー」と挨拶したのが、「君なんて失礼な!」と思つたが、微笑んで語りかける年配の男性が新鮮で信頼できるものを感じ、この先生についてみようと思った。それで、思つてもみなかつた詩を書くことに(笑)。

Q 出会いありきだったのですね

東京で4畳半のアパートに住んで: よく師の言葉に救われた。「死ぬまで詩を書き続ける人が詩人だよ」また「すべての時が詩になる美しい時」「仕事のことを書きなさい。生活のことを書くんだ」。「私みたいなちやんぽらんな」という言葉を書いた生徒には「自分をちやらんぽらんなんて言っちゃいけないよ。たとえ人が言つても自分が自分を大事にするんだ」と。

師の言葉・人間観に常に励まされ、次第に私は本当は人生に何を求めているのだろうと思うようになった。その後、地元に帰り、結婚して子どもをもうけたが、東京での数年間は「生きていける」という自信をつけてくれた。

Q お寺の他にも様々な活動をされてい

ますが? 以前は嫁としていなくてはいけないと言われ、仕事はお茶を出すだけ。主体として感じられることがほとんどなく、男性社会のお寺でどう生きて



▲前作以降の2004年4月から2015年2月までの130篇を2分冊として収録した詩集『私を呼ぶのは』。朝倉さんのイメージの色梅色の素敵な装丁です。

「できなかつたなあ」という日も多いが、振り返つたとき「こうして生きてきた」という道ができる、と先輩の女性僧侶に教えてもらった。詩集もそんなどなあと感慨深い。今、息子も僧侶となりお嫁さんもできた。彼女も彼(息子)のストーリー(history)ではなく、ハーストーリー(herstory)を生きられるように願つてゐる。私も自分のハーストーリーをつむいで生きていきたい。

●『私を呼ぶのは』より

「父の日に」より抜粋

私の子どもたちよ

遠慮なく 私に 悪態をつきなさい

皺が増えた: 何回も聞いた: また忘れた: と

それらが 私のほとんどを占めるようになつてさえ

まだ あなたたちにしてやれることがある

そして いざれ あなたたちも 気づくだろう

誰もが その途上にあることに

★ 師の教えが、今も日々の生活に息づいて、こうやってまた多くの方に伝播していることに、言葉と想いの強さを感じる。同時に、その人を想う愛というものの力が、その人を突き動かす勇気になるのだと。仏教用語の無財の七施のうちの一「和顏施」。かるやかに、しなやかに、にこやかに。何をも受け入れる朝倉さんの笑顔の奥にある強靭さを想つた。

(木戸敦子)



▲僧侶であり、女性の抱える様々な問題の相談・支援にあたる「女のスペース・にいがた」の代表でもある朝倉安都子さん

投稿作品

※誌面の都合上、投稿作品の掲載は
お一人さま1作品、先着300名様
までとさせていただきます。何卒ご
了承ください。なお、今回の投稿は、
238点でした。
※しめきり 2015年9月16日(水)まで
※作品は原稿どおりに掲載しております。

俳句

1 十葉は可憐な花と香成す

須澤重雄(長野県)

2 起き上がり小法師が起きてさくらん
ぼ

小島岳青(新潟県)

3 潮風のディナークルーズ星涼し

川口 裏(埼玉県)

4 石斛や大木にある蟻の道

松田重信(埼玉県)

5 列をぬけ孤独な蟻の思ひやり

吉里ひとみ(東京都)

6 尼寺の書き付け哀し岩煙草

松尾らん(東京都)

7 黒髪も白くなりけり桑は実に

吉里ひとみ(東京都)

8 黒人のピアスがキラリ晩夏かな

内河邦久(東京都)

9 青葉風いま併せの中に住む

井原毬子(東京都)

10 煌めきて地球は丸し夏の海

天野輝子(東京都)

11 百日草たこ焼屋台も夕暮れて

安部 哲(新潟県)

12 ラムネ抜く拳で涙拭ふ子へ
一瀬正子(埼玉県)

13 江戸つ子の友に癌入る梅雨湿り

緑川禎男(埼玉県)

14 花筏海へ練り出し宜候

三津木俊幸(千葉県)

15 石垣や楚々と咲きたる虎耳草

西條公雄(埼玉県)

16 生き甲斐の証鋤く手に玉の汗

有坂馨園(福島県)

17 新茶汲む戦時の記憶千人針

道給一恵(埼玉県)

18 着替えには現職の頃りサイクル

土谷敏雄(秋田県)

19 白檀の扇子香も失せ色も褪せ

檜山とり子(東京都)

20 六年の痛み放たれ露に消える

白松一良(千葉県)

21 未の刻に少しの間のあり未草

平山千江(岩手県)

22 夏浜やエンジェルロード恋の道

山本理香(大阪府)

23 蝉の殻拾ひ集めし秘密基地

近藤薰也(千葉県)

24 沖縄忌我が人生の課題なる

福岡 悟(東京都)

25 アカペラで唄うネズミや麦の秋

白戸麻奈(東京都)

26 神将の忿怒きはむる酷暑なり

吉村充治(埼玉県)

27 故人にも誕生日あり赤き薔薇

竹本英美子(新潟県)

28 大皿に母手作りの葛まんぢゅう

古谷 力(東京都)

29 蕎麦を打つ古民家の土間賑わえり

関原幸子(東京都)

30 一年の命をつなぐ田植泥
阿部幸子(宮城県)

31 瓦なく居久根のみなり夏の月
菅原茂子(宮城県)

32 制癌剤投与と判る毛糸帽
山崎吉晴(群馬県)

33 生真面目に生き来て梅雨の戦争法
佐藤正子(福島県)

34 花あやめかぶる渡舟や雨白し
上村元義(神奈川県)

35 吾が猫に腕の枕す夏座敷
城山憲三(愛知県)

36 サングラス取つて会話の弾みけり
井上静夫(栃木県)

37 淋しさに沢庵かめば母の味
湯浅暉子(石川県)

38 香り立つバジル嫁ぎし子の残し
黒田康子(大阪府)

39 紫陽花は満開人の住まぬ家
宮宅芳子(岡山県)

40 芝生の端紫菖蒲凜として
田野倉訓郎(東京都)

41 南天の花に移ろう月日かな
吉村充治(埼玉県)

42 卓袱台に昭和の匂ひ冷奴
長峰正晴(千葉県)

43 平凡に生きて独りの冷奴
青木ケン子(埼玉県)

44 闘病のついに終りぬ麦の秋
佐野和彦(静岡県)

45 隅田の花火といふ名の額の花
青木涼子(埼玉県)

46 紫陽花の寺の護摩堂昼灯
津田忠彦(岡山県)

47 青梅を掌にころがし赤子抱く
田中 祥(鳥取県)

48 自転車のスカートさわやか更衣
水落重武(新潟県)

49 カーテンのふくらむ風の初夏を抱く
杉村美保子(岩手県)

50 衣更えてくらいいよいよ自分流
堀木和子(大阪府)

51 端居してアンドロメダの風を待つ
榎本望生(大阪府)

52 花咲きぬソメイコヒガンヤマザクラ
森 俊彦(神奈川県)

53 富士川の流れは玲瓈桐の花
渡邊碧海(静岡県)

54 沖縄の海の匂ひや貝風鈴
山本直子(大阪府)

55 あじさいの紫ひとつなくなりて
木下 精(大阪府)

56 紫陽花のおしゃべりはづむ雨上り
炭崎 博(滋賀県)

57 牛込は坂道多し梅雨葵
松嶋光秋(東京都)

58 席亭や和芸にききいる汗にぎる
黒岩正子(埼玉県)

59 ひと日謝しころ平らに水を打つ
寺内 信(埼玉県)

60 夕焼にチャイムが鳴つてまた明日
湯浅芳郎(岡山県)

61 水馬今日は遠出をするつもり
服部八重子(東京都)

62 アロハシャツ顔は日焼けの厚化粧
湯浅芳郎(岡山県)

63 独り居の暮し素となり冷索麺
大橋恒次(新潟県)

64 空蝉の人だけ見えぬ覗き窓
田中 祥(鳥取県)

65 雨霖るるとき鳴き初むる遠郭公
杉原明子(静岡県)

投稿作品

66	夕焼にきらめく大河石狩川	堀田寿美子(北海道)
67	梅雨入りや川柳披露のバス旅行	油谷博子(兵庫県)
68	餌に集ふ梅雨も飲み込む池の鯉	金子範子(高知県)
69	釣り好きの亡夫に供えし初饅頭	河野静子(埼玉県)
70	引きかへすチャンスは今だかつむり	長谷川正(東京都)
71	手に掬ふ百選の水河鹿鳴く	邑橋節夫(兵庫県)
72	「でれすけ」と父の声する麦の秋	田野井一夫(栃木県)
73	割箸に替へていただく心天	阿部徳夫(宮城県)
74	復興の田のさざ波や梅雨走る	浅野信廣(宮城県)
75	レブリカの一本松に鳥の巣	高崎登喜子(東京都)
76	夏草の外来種いま身丈越す	羽根田明(神奈川県)
77	一ト蹴りの山を越えたる水馬	小澤円梨(静岡県)
78	神苑をめぐりて和む花菖蒲	中田文子(大阪府)
79	池の面をすれすれ飛ひかう母子燕	長谷部喜代子(大阪府)
80	涼求め紫陽花生けてひとやすみ	鈴木みえ(長野県)
81	夏場所やモンゴル人で占められり	福田和子(東京都)
82	夏兆す樹幹に水の流れ聞く	磯部力(新潟県)
83	遠雷や亡父の齢にまた一步	坪田勝秀(鹿児島県)
84	単線の鉄路一筋夏野原	中嶋清子(佐賀県)
85	銭亀や顔合はすたび餌ねだる	田中恵美子(山形県)
86	走り梅雨早苗の列の曲りをり	小泉和明(茨城県)
87	里帰りせしに語らず四葩咲く	岡村君枝(茨城県)
88	トランプの札かたまりて梅雨深む	倉田淑子(東京都)
89	山坂の人生未だ若芽ふく	井上氣海(広島県)
90	廃屋は往にしのままや合歓の花	野村隼人(東京都)
91	梅雨の間に気をもむ空間待合せ	藤井春三(埼玉県)
92	荒寺に心経をきく五月闇	石井美智子(埼玉県)
93	句作りや不調の吾に今朝の夏	中野勝子(鹿児島県)
94	梅雨寒の読経の声に母しのぶ	中村和弘(愛知県)
95	愛惜の薄れし日々や濃あぢさゐ	岩田信(神奈川県)
96	駐輪場にアーチとなりし郁子青実	長野光康(神奈川県)
97	うど酢味そさぐりてしのぶ亡母の味	星一子(神奈川県)
98	春ごたつ夫としばしの花談義	松涛千鶴子(東京都)
99	竹林の奥に白百合染め尽くし	滝沢敬子(東京都)
100	過ちも悔ひも鎮めて水中花	塙田寿子(埼玉県)
101	「夏の陣」四百年のつじかな	中山日出子(大阪府)
102	浮いてこい僕の友達みんなこい	鈴木蝶次(宮城県)
103	草雀りこの身このまゝ仏なり	渡邊清(宮城県)
104	無口なる祖母逝きし朝梅眞白	宇田川正雄(埼玉県)
105	裸の子裸の父に肩車	村田吉雄(東京都)
106	曇つても晴れてもトマトよく育つ	高杉杜詩花(北海道)
107	兄の名の碑に額寄せ沖縄忌	増田公代(東京都)
108	すだれごし庭の一輪はなだいろ	金子よし子(新潟県)
109	でで虫の見え隠れする如雨露の口	鮫島茂利(兵庫県)
110	とこしへにこの世安かれ終戦忌	梅雨寒の読経の声に母しのぶ
111	気負いても得られず麦秋の帰り道	岩田信(神奈川県)
112	日焼けして大きな夢を語りけり	野木宗信(奈良県)
113	岩稜を攀ぢ山頂の白やしほ	津布久信雄(東京都)
114	誕生日祝いのパジャマ着て眠る	花塚三郎(千葉県)
115	水注せば直ぐに答えり水中花	田中美智子(埼玉県)
116	螢火にまやかされしや彷徨す	古川正栄(千葉県)
117	春風に抱かれ杖の散歩かな	林ゑみ子(群馬県)
118	ひとつだけ色ことなれりチュウリップ	柴田恵美子(北海道)
119	どくだみの一輪置き場所迷ひける	若月理依子(新潟県)
120	夏帽子大河に落ちて流される	小林春雪(新潟県)
121	天の川会ひたき星は只ひと	藤島君子(北海道)
122	絵ハガキの穂高連峰夏近し	山崎鶴恵(鹿児島県)
123	少年の目にやきついた敗戦忌	齊藤安弘(神奈川県)
124	墮栗の雨や漢の匂ふ栗の花	勝田久美(大阪府)
125	苗箱を洗う手元や糸蜻蛉	宮本幸子(埼玉県)
126	大青田鷺の頭のつくと立つ	西川孝子(奈良県)
127	雨音にやすらぎ得たる夜の短か	針生清(千葉県)
128	あじさいやあの友の友笑顔咲く	沖惇子(大阪府)
129	紫陽花の帯がいいかも藍紬	中澤寿美(神奈川県)
130	孫膝に抱くを夢見て浴衣縫ふ	中村康浩(福岡県)
131	朝顔の芯つみ百の花待てり	古川正栄(千葉県)
132	下闇の雀小走る通り道	佐藤信(神奈川県)
133	若き日の恋の話や冷し酒	増本和子(大阪府)
134	夏帽子土星さながらひよいとのせ	高垣勝代(大阪府)
135	植田はや風に委ねるすべを知り	木村軸(山形県)
136	夕暮れにつましき今日の幸思う	有田俊一(埼玉県)

138 蜘蛛の子のさても見事な親離れ

今井勝子(新潟県)

139 滴りて滴りて岩穿ちたる

佐々木崇嗣(新潟県)

140 薫風に大漁旗をなびかせり

中川義彦(新潟県)

141 自転車の大中小の夏帽子

石川郁子(埼玉県)

142 手花火の児に手を添へてやりにけり

駒場京子(神奈川県)

短歌

143 男と女の常識の時間相異から生まれ
しまつたたしかに耐えられているこの
ごろぼ

梅澤鳳舞(埼玉県)

144 兩陛下バラオペリリュー島に白菊を捧
げ給へる姿うやうやし

今井忠一(東京都)

145 どの世界も足をひっぱるみぐるしさ
心の深層はかり知れざり

高須 孝(愛知県)

146 小野市にて歌会がありユニークな市
長の祝辞に万場はわく

藤原昭三(滋賀県)

147 春のまま岩手の風の駆け抜けで二百
の歌碑に潜み居りしが

早坂紘司(北海道)

148 乗つかるか国内外の祭典によさこい鳴
子で「いい世さまいこい」

西山悌三郎(高知県)

149 ふるさとへバス三台を乗り継ぎて訪
なう山々花盛りなり

寒川靖子(香川県)

150 優しさと親切支え愛を得る病みて家
族の絆深まる

田中迪子(東京都)

- 151 しの字なるかたちにみのりぶらさが
るきささぎの実は別所街道に
私のいいひと海のカモメに
- 152 「生きているうちが花だよ」口ぐせの
阿部澄江(宮城県)
- 153 下水溝どしゃぶりの雨流れゆく真昼
の町を超忙しく
- 154 けなげにも歩道の割れ目に咲きいで
し雑草か「否」われはタンポポ
- 155 此処までに病や事故の積み重ね傘寿
の節目省みるとき
- 156 田中豊恵(新潟県)
- 157 平和維持のためにと戦争への道開く
憲法解釈無理やり変えて
- 158 叫べどもまた叫べども答なく世界の
涯に落ちる声かな
- 159 老いてなお燃ゆる心の命あり青青と
して鳴くほととぎす
- 160 婦唱夫隨の暮らし事なく傘寿過ぐ在
るままがよし老いの坂道
- 161 新しいレインコート着ての梅雨の日も
雨を楽しむそばにカエルが
- 162 ライン川ほとり古城で挙式せし息子
を見まれる喜寿の幸せ
- 163 誕生日一人迎うはわびしくも旧友よ
り祝う声嬉しかり
- 164 後方だつて戦争に変りなし
- 165 仏前で一家団欒水入らず
- 166 老いたれど何かやらぬと気がすます
守屋高雄(岩手県)
- 167 親父の背を見せず育てた妻の勝ち
関本 守(新潟県)
- 168 勃呂の海も穏やか今は初夏
- 169 雷ビカッ目に角ほえて消える犬
- 170 四コマのマンガで朝はうす笑い
- 171 遠藤よプロはそんなに甘く無い
- 172 ゆく川の流れを知らぬ『九条』よ
- 173 平和がええ波立つ底を思うまい
- 174 気配りが過ぎて肝心間が抜ける
- 175 メタボ犬おなかがつくよダイエット
- 176 練習の勢いどこへやら清書

163 誕生日一人迎うはわびしくも旧友よ
り祝う声嬉しかり

164 後方だつて戦争に変りなし

165 仏前で一家団欒水入らず

166 老いたれど何かやらぬと気がすます
益永克之(福岡県)

167 親父の背を見せず育てた妻の勝ち
関本 守(新潟県)

168 勃呂の海も穏やか今は初夏

169 雷ビカッ目に角ほえて消える犬

170 四コマのマンガで朝はうす笑い

171 遠藤よプロはそんなに甘く無い

172 ゆく川の流れを知らぬ『九条』よ

173 平和がええ波立つ底を思うまい

174 気配りが過ぎて肝心間が抜ける

175 メタボ犬おなかがつくよダイエット

176 練習の勢いどこへやら清書

177 喜怒哀楽いみじくも知る存在感

178 五十嵐陸博(新潟県)

179 落ち梅を横目で見つ瀆け頃ね

180 曜と読む納得の婆よせる耳

181 空を見て何をするかを考える

182 喜びは分け合い辛さひとり負う

183 待ち時間十分迄と決めている

184 茶髪の子鴨居にだけはする御辞儀

185 メロドラマしつかり観れる妻の留守

186 怖がると不ズミ花火の思うツボ

187 誰しもが振つて音聞く種袋

188 妻の酌百葉の長効いてくる

189 リニアより各駅停車の旅がよい

190 鬱の字が漢字で書けるほどの鬱

191 人の輪は和を重ねると温かい

192 二人きりいつも食事はありあわせ

193 西山知子(岡山県)

194 新井 賢(埼玉県)

川柳



岩崎令子(大阪府)

木村誠一(神奈川県)



フォトイック (写真で一句)



(写真提供:中川 肇さん)

こちらの写真を見て詠んでいただきました。

- 201 右傾化へ仏も首を傾げて
竹村 穏夫(大阪府)
- 202 春愁や温故知新の顔貌 岩村 昇(神奈川県)
- 203 高僧の夜あそびすぎて転た寝す
大阿久雅子(埼玉県)
- 204 駄蕩として居眠れる道祖神 黒澤正行(福島県)
- 205 春眠し途切れ途切れのキー ボード 小林七重(新潟県)
- 206 灌仏会雨を降らせて花祭 五味田幸夫(神奈川県)
- 207 願い事ばかり多くてつかれたわ 石尾曠師朗(東京都)
- 208 道祖神道理も指南揚雲雀 居原田連星(大阪府)
- 209 かしげても原子力発電未解決 和崎治人(山口県)
- 210 今のがれ昔はもつとキレイやつた 佐伯セツ子(香川県)
- 211 児の守りに疲れ野ざらし泣きぼくろ 岡本邦子(福岡県)
- 212 首かしげ誰を想ふや乙女佛 萬濃その子(神奈川県)
- 213 愛と哀心に秘めて生きてます 佐伯セツ子(香川県)
- 214 何となく頭が重いやうつだ 久本にい地(岡山県)
- 215 仏さま次の説法夢の中 岩崎政弘(岡山県)
- 216 観音様たゆたう春についくつくり 濱崎祥子(鹿児島県)
- 217 いつか見た妣の寝顔を想ひけり 高柳閑雲(愛知県)
- 218 恋螢想い出なんてもういらない 片山茂子(埼玉県)
- 219 つゆの月ややの誕生じと待つ 大谷 茂(埼玉県)
- 220 烏鵲も春陽にうつらうつらかな 近藤富夫(東京都)
- 221 うなづくか首をふるかは知る人ぞ 松前邦広(千葉県)
- 222 無言でも平和を祈る石仏 大木和男(東京都)
- 223 神仏も鬱となるらし梅雨最中 中岡昌太(神奈川県)
- 224 ハーテなーいまのの人誰だっけ!! 重原 昇(新潟県)
- 225 うふふふウフフフフうふふふふ 藤橋一葉(新潟県)
- 226 国会はデモの代わりに夢の中 合田浩子(茨城県)
- 227 この世での健康一番午睡なり 仁藤ひろじ(埼玉県)
- 228 御仏も時に頭痛ぞ炎天下 有田裕子(北海道)
- 229 深緑に抱かれ素直になる自分 目黒豊光(福島県)
- 230 冥想の母恋仏や木下闇 鈴木岑夫(千葉県)
- 231 苦渋の日々世界平和を思案中 青木日出男(群馬県)
- 232 聞いてれぬ眠りがおそう初夏うらら 安田優子(北海道)
- 233 有為天変語らば笑ふ薄まなこ 小山羊子(新潟県)
- 234 南風のささやきめいで白昼夢 有島和子(東京都)
- 235 告白に首をかしげて思案顔 中林恵子(大阪府)
- 236 耳朶に触る天界混迷梅雨ふかし 北野耕兵(千葉県)
- 237 観音の施無畏の掌より孕鳥 写真から想起される世界は無限大です。応募はアンケートハガキ投稿欄にて。ユーネクなイック(一句)をお待ちしております!

●俳句・川柳募集!!



(写真提供:中川 肇さん)

フォトイックに投稿は来るのかしら…
と、アンケートハガキとにらめっこ。一喜一憂していた当初から一転、皆さんの積極果敢なチャレンジ精神に心から拍手、感謝いたします。
柔軟な発想、自由な想像力、その拡がりをいの一番に読める役得をうれしく思いつつ、次回も楽しみにしています!!

238 石仏も春陽にうつらうつらかな 永井俊樹(兵庫県)

6月号の

心に残つた作品

「投稿作品で心に残つたものは?」の問い合わせに、たくさんの回答をお寄せ頂きありがとうございます。その中で特に多くの評価を集めた作品と、それを選んだ理由の一 部をご紹介します。

◎短歌部門大賞

1 ギンギラに輝く夕日明日なれば朝日
となりてまた輝かん

清水英雄(東京都)



清水英雄様

◎川柳部門大賞
39 DMと役所以外は来ぬ手紙

木村誠一(神奈川県)



木村誠一様

《俳句》

114 と金には成れぬ人生冷奴
阿部徳夫(宮城県)

憲は手おんぶをしてくれた父の背中の匂いでした。高崎登喜子(東京都)・父の日のある6月号にタイムリーに投句して来たセンス、頂き! 仁藤ひろじ(埼玉県)・いつも父の力づよい差し延べる手に支えられて生きている感謝の気持ちが: 高杉杜詩花(北海道)など

【自句自解】

・成程! 山崎一嘉(愛媛県)・高令化
社会 森恒雄(愛知県)など

【自句自解】

注意しないと減額が分からぬ年金
支給の通知、腹を立てない程度に毎年
値上げする健康保険や介護保険の通知、

無料の文字に惹かれてサンプルを申し
込んだら、DMの束に勧説電話のおま
けつき。年寄り世帯の日常で、ポストを開けながら考えた句が、多くのみなさま
から共感をいたいたことで、この上ない喜びに浸っております。

川柳を始めてまだ二十年、生活に密
着した事柄を分かりやすい表現で句に
まとめるよう努力していますが、十七文
字の敷は死ぬまで抜けられないだろうと
覚悟しております。

◎俳句部門大賞

118 ふらっこや背中に父の手の記憶
一瀬正子(埼玉県)



一瀬正子様

114 と金には成れぬ人生冷奴
阿部徳夫(宮城県)

・上五の響きが冷奴を浮かせている。これが人生なんです 福岡悟(東京都)

・八十年を歩のままの人生、ふと金になりたい時がある。「無理」黒澤正行(福島県)・上手なたとえで人生を表現されました 増本和子(大阪府)・冷奴からト金の発想上手です 高垣勝代(大阪府)など

【他にも】

箴言に断酒の夫

23 限界はあと二年なり止めさす医師の
田中豊恵(新潟県)

33 民宿の客は朝寝も義理のうち
音喜多千津子(埼玉県)

100 弥彦山より暮れゆく佐渡や鳥帰る
青木日出男(群馬県)

124 東京のさくらはどうと疲れけり
湯浅芳郎(岡山県)

110 葱坊主方程式は解けぬまま
古谷 力(東京都)

180 だからこそ謙虚に生きたしすみれ草
仁藤ひろじ(埼玉県)

182 「父の日」の母を大きく家族の絵
中村康浩(福岡県)

119 あをき香の全身に染むる新茶かな
小島岳青(新潟県)

180 だからこそ謙虚に生きたしすみれ草
仁藤ひろじ(埼玉県)

182 「父の日」の母を大きく家族の絵
中村康浩(福岡県)

119 あをき香の全身に染むる新茶かな
増本和子(大阪府)

202 狗犬も深呼吸する若葉風
高垣勝代(大阪府)

225 初花や加齢は華麗と読み替えよ
岩村 昇(神奈川県)

【自句自解】
北陸新幹線の「かがやき」号を新高岡駅に常停車させようと創った歌。童謡「夕日」の作曲者室崎琴月は高岡出身。
作詞は広島出身の葛原しげる。それが「ギンギンギラギラ夕日が沈む!」常停車応援短歌で夕日が沈みっぱなしでは困る。ピンチはチャンス! 沈んだ太陽もない夜はない。明日に希望を繋ごう。
「輝」を二重に遣っているが、「かがやき」号を常停車させようとする強烈願望の表れである。

・幼きときの父子の情愛が下五「手の記憶」により強調されてよい。句が生きたた
田中昶(鳥取県)・亡くなつた父の記

・春蘭の花美人の如し 藤原昭三(滋賀
県)・私にも、そんな思い出があり、笑つた 高橋登志子(新潟県)など
『川柳』

29 ランドセル頭と手足ついて行く
石原 岳(群馬県)

・新一年生の小さな背なかにランドセル
が一頭と手足ついてゆくがおもしろい表
現です 小山恵美子(大阪府)・来年の
孫の姿を想像して 中林恵子(大阪府)

※今後もふるつてご投稿をお願いいたし
ます!

A QUESTIONNAIRE

詠み人スクランブル

前回のアンケート

Q. 夏休みの宿題の思い出は?
※紙幅の関係上、すべてのお答えを掲載できませんことをお詫び申し上げます。



★早めに派

・七月中に全て終らせて八月は毎日のように海に行き遊んだ

近藤薫也(千葉県)

・一週間程で出来る宿題は全部片づけて遊び惚けた
竹村穂夫(大阪府)

・一週間ぐらいで「夏休みの友」をすませ、川で泳いだり、磯で貝とりをした

濱崎祥子(鹿児島県)

★ギリギリ派

・好きな絵を描いてあと研究、宿題帳はぎりぎり
須澤重雄(長野県)

・まだ大丈夫まだ大丈夫と思っていたら：

吉村充治(埼玉県)
・家の手伝いでなかなか進まなかつた宿題、終了間際でいつもあせつていた

吉村充治(埼玉県)

・植物を採集分類して提出せよ怠けて八月三十一日になつて、家の庭、道端から草をつんできて新聞紙にはさんでアイロンがけして提出

石尾曠師朗(東京都)

・夏休みの終りの日、宿題がいっぱい残つており泣いたこと
中野勝子(鹿児島県)

・8月25日頃からあせり出し31日は夜中迄宿題に追われていた。今もその性格はありません
中林恵子(大阪府)

・前夜泣きながら仕上げて母に叱られた。息子も全く同じで私も母と同じく叱つていた
中山日出子(大阪府)

・八月三十一日、夜十時、終わりそうもない「夏休み帳」に涙がこぼれました
若月理依子(新潟県)

・夏休みの最終日、深夜まで宿題の工作を父に手伝つてもらつた

大鳥居牧子(東京都)

・夏休みの最終日、深夜まで宿題の工作を父に手伝つてもらつた

針生 清(千葉県)

★子、孫

・子の宿題では「自由研究」が悩みの種

鈴木義雄(福島県)

・孫が漢字を毎日一頁ずつの宿題。あれは酷だと思った

檜山とり子(東京都)

・子供の観察日記、読書感想文などに私自身が必死

片山茂子(埼玉県)

・夏休みの終りになると父親は宿題の作品係りで汗を流し、私は読書感想文のお手伝い
澤 雅子(大阪府)

・息子が小学校の時、夏休みの家族旅行の思い出の旅行記を手伝つた

関原幸子(東京都)

・孫の宿題に俳句がでて張り切つて添削!
高崎登喜子(東京都)

・息子の「蟬の変態」の記録は県のコンクールで特選に!親の作品だと気付かなかつたのか?

萬濃その子(神奈川県)

・孫の岩石収集に付き合わされ山中を歩き回りました

坪田勝秀(鹿児島県)

・子供達の宿題でふる里に帰つた手記が必要な為、故郷に半月位訪問した事
野木宗信(奈良県)

・息子と日本地図を模造紙7枚に書き、自分達がいつた所へ足あとを残して、都道府県を覚える勉強に役だつた

大鳥居牧子(東京都)

・金賞をもらおうと手伝つた絵、手伝い過ぎ、子供の大胆さに欠けてしまい賞はもらえず…ごめんなさい

音喜多千津子(埼玉県)

・娘は泣きながら「できないから手伝つて」と父の私にSOSをよく発していた
阿部徳夫(宮城県)

・從姉妹に「夏休みの友」を教えてもらひながら朝の涼しい時にした

三上益子(島根県)

・小学5年の息子、家族と一緒に三十分以上歩く
阿部 至(埼玉県)

・叔父から紙とのりで故郷の俯瞰地図を作ることを教わつた

白松一良(千葉県)

・模造紙に家族4人分の夏休み中の予定をカラフルに書き入れ壁に貼り出していた
黒田康子(大阪府)

・仲の良い家族同士でキャンプなどの絵を仕上げた
堀田寿美子(北海道)

・高校時代の工作で父と合作で短冊掛を作つたが板鋸とニスを使って一級品

・橋の模型作り。板を切つて削つて一夏苦労した
津布久信雄(東京都)

★家族で

★工作

・宿題はみんなすませたのに、算数の計算ばかりの二頁を忘れていて、最後の日、母、つきつきりでしあげました
大変叱られた
増本和子(大阪府)

・「書き取り」をほとんどやらず先生に

・「書き取り」をほとんどの先生に

・従姉妹に「夏休みの友」を教えてもらひながら朝の涼しい時にした

三上益子(島根県)

・父が一生懸命教えているのに「上の空」だった
重原 昇(新潟県)

・分数が判らずに泣いたこと、父はやさしく教えてくれた
小山羊子(新潟県)

・父が一生懸命教えているのに「上の空」だった
堅田秀子(東京都)

・手作りの工作品を持って勇んで登校していたのを思い出す
浦橋克行(兵庫県)

・高校時代の工作で父と合作で短冊掛を作つたが板鋸とニスを使って一級品

・橋の模型作り。板を切つて削つて一夏苦労した
津布久信雄(東京都)

★日記

★日記

・宿題はみんなすませたのに、算数の計算ばかりの二頁を忘れていて、最後の日、母、つきつきりでしあげました
大変叱られた
増本和子(大阪府)

・「書き取り」をほとんどの先生に

・従姉妹に「夏休みの友」を教えてもらひながら朝の涼しい時にした

三上益子(島根県)

・父が一生懸命教えているのに「上の空」だった
重原 昇(新潟県)

・分数が判らずに泣いたこと、父はやさしく教えてくれた
小山羊子(新潟県)

・父が一生懸命教えているのに「上の空」だった
堅田秀子(東京都)

・手作りの工作品を持って勇んで登校していたのを思い出す
浦橋克行(兵庫県)

・高校時代の工作で父と合作で短冊掛を作つたが板鋸とニスを使って一級品

・橋の模型作り。板を切つて削つて一夏苦労した
津布久信雄(東京都)

A QUESTIONNAIRE

- ・最後の2日間の絵日記のまとめ書き。
息子もそうでした
一瀬正子(埼玉県)
- ・子供の絵日記「江戸川の花火大会」
田中迪子(東京都)
- ★自由研究
 - ・「発芽かんさつ」新聞の佳作となりました
二瓶邦枝(埼玉県)
 - ・「ぼうぶら」が蚊になる迄の研究をまとめ表彰された
三津木俊幸(千葉県)
 - ・新聞にのせられてる月の写真を毎日きりとり
山本理香(大阪府)
 - ・息子が、海水を探ってきて塩を作った。煮詰めて煮詰めた末の成果品に親子共々感動!
小林七重(新潟県)
 - ・蚕が繭をつくるまでの観察。毎夕桑を取りに子供と出かけ繭が出来た時のうれしそうな顔が忘れられません
黒岩正子(埼玉県)
 - ・「蟻の研究」ボール紙とガラスで作った箱を用い、蟻の巣作りを毎日観察し、記録。全校生の前で発表
浅野信廣(宮城県)
 - ・長女の川の自由研究で、富士山の雪解け水が芝川となり富士川に行くまでのこと
小澤円梨(静岡県)
 - ・ゴム動力による丸太利用の潜水艦づくり
北野耕兵(千葉県)
- ★昆虫採集
 - ・昆虫採集の標本作りを手伝ってくれた優しい父
古谷 力(東京都)
 - ・トンボや蝶などを取つた場所が今は宅地になり子供の頃がなつかしい
井上氣海(広島県)
 - ・網でとんぼや蝉を追いかけた夏
桑原謙一(群馬県)
 - ・鬼やんま、稻刈りとんぼなどとつた
鈴木岑夫(千葉県)

- ・昆虫を追い回した虫博士でしたから、宿題はもちろん「昆虫採集」
目黒豊光(福島県)
- ★植物採集
 - ・道端の野草を週刊誌の間に挟んで持ち帰り、立派な植物標本が出来上がりました
母子共々大満足
大阿久雅子(埼玉県)
 - ・植物採集が好きだった
山本直子(大阪府)
- ★観察
 - ・庭に大きな水がめを持ち込み水蓮を育てた。成長の変化ある毎にカメラに納め一冊のアルバムにした
仁藤ひろじ(埼玉県)
 - ・朝顔を鉢に育て生育日記を出してクラスで先生からほめられた
神 一男(静岡県)
- ★戦争
 - ・戦争中なので実質的な夏休みの記憶なし。月月火水木金。毎日労働日で、疎開先で午前中の涼しうちにさつさとすませ午後は海であそんだ
長谷川正(東京都)
 - ・戦争の頃「うさぎ」を飼っていました
寒川靖子(香川県)
 - ・私の時も子供の時も手芸は大好きで手伝つて持つて行かせてほめられました。昔の親は手伝つてくれない、忙しくて(笑)
佐伯セツ子(香川県)
 - ・小学生の頃、鎮守様の森にて宿題を友達とやりました
道給一恵(埼玉県)
 - ・バレーの合宿で涼しい朝夕は外で練習、日中暑いので音楽室で宿題の見せ合い写し合いをした
田中豊恵(新潟県)
 - ・夏休み中、一回も宿題をせず友に全部見せてもらつた
高橋登志子(新潟県)
- ★絵
 - ・有名画(油絵)をクレヨン模写し、校長室で絶賛され、困つた
千代田栄次(東京都)

- ・絵の宿題が大好きでした
福田和子(東京都)
- ・町の子と御輿をかついだ絵が一等賞にいた
益永克之(福岡県)
- ★農家が忙しくて:
二日間は宿題の為に朝から夜まで机に向う
山崎吉晴(群馬県)
- ・農家の子供に夏休みはありません
青木日出男(群馬県)
- ・宿題が見兼ねて親が休暇とり
石原 岳(群馬県)
- ・宿題帳がきれいで内容のウソがばれました
藤沢健二(千葉県)
- ・湯浅暉子(石川県)
- ・お家は土族か平民かとの宿題に、父は「うちは水のみ百姓よ」と書いたら岡本邦子(福岡県)
- ・先生が大笑い
岡本邦子(福岡県)
- ・課した宿題をみるのに苦労した
久本にい地(岡山県)
- ・小学四年漢字五百文字に苦戦した
大谷 茂(埼玉県)
- ・大学一年の時、機械力学の宿題が英語でだされ何題も出来なかつた
森 恒雄(愛知県)
- ・親、子、孫共々読書感想文には泣きました
奥那於子(大阪府)
- ・孫は来る来る婆は疲れる夏休み
大久保アヤ子(東京都)
- ・自分の手作り句集の和紙と子供の夏休み作品のため「王子」の紙の博物館に行つた
池田 岬(埼玉県)
- ・「天気」の欄をうめるのに苦労
橋本世紀男(東京都)
- ・夏休みは天国、宿題は地獄でした
稻葉民雄(千葉県)
- ・40年振りに夏休みの宿題、小学一年と三年の時の写生画を先生が返して下さいました。宝物となりました
林ゑみ子(群馬県)
- ・初めての臨界学校、初めて海を見る
山の子に海はでかいな磯遊び、人生初俳句
村山徳英(埼玉県)
- ・朝鮮戦争の頃、はえやねずみの駆除のポスターを描き賞品として、ざら紙千枚をもらいました
大橋絵代(千葉県)

6月号へお寄せいただいたお声、ほんの一部ですがご紹介します！皆様の温かい感想、親身なアドバイスで情報誌「喜怒哀樂」がつくられています。今号へのお声も、お待ちしております。

- ・菜根譚。目先だけにとらわれず先を見越して接すること。心にしました。
- ・朱鷺里山句会。すばらしい句ならびに温評とても学ぶところが多く、楽しく拝読しました。
- ・上村シマ様の今までの生き方と心意気又その生きた証しを句集にされた事に大変感動致しました。
- ・投稿を読むとそれぞれの人生の一ページであり人生の縮図の様に思います。
- ・お客様のリレーエッセイ。母が旅立ってからもう20数年ですが、今でも見送ったという実感はありません。毎朝遺影に語りかけて泣いたり笑ったりしています。
- ・6月の祝日、皆様からどんな意見が出るか楽しみにしていました。多種多様のご意見に納得しながら読ませていただきました。
- ・ザ・ボイスに投稿作品数が少ないと意見がありました。実際は如何でしょうか。会員の増減をゆるされる範囲で知らせては？
- ・「新潟ぶらり」の吉田東伍の話に感銘を受けました。
- ・「良寛の書と敬慕者たち」。良寛様の名が全国に広がったのは近年だったのですね！
- ・ソーダ水のしあわせ、わが青春を想い出しました。
- ・「詠み人のリレーエッセイ」の「収集癖」楽しく拝読しました。興味あることの収集は老化防止に役立つと私は自己弁護しています。
- ・「良寛俳句会」のチラシ、嬉しく思いました。ぜひ投句したいと思います。
- ・新企画、皆いいですね。特に「ザ・ボイス」は読者の感じ所の多彩さが伝わり気に入りました。フォトニックの発表が楽しみです。
- ・ショパンのメロディを思わせる栞。先回の「桜」と共に嬉しい！！
- ・何時もながら内容充実。人生の機微を伺わせ生き甲斐を感じさせてくれて感謝に堪えません。

*新潟市食育・花育センター

夏空が広がった鳥屋野潟のほとり。とてもびのびとしていて、気持ちがいい場所だ。ここに、新潟市食育・花育センターがある。

ところで、新潟市民が自慢に思っていることは、なんでしょうか。そう、米どころであること。そして、内心もっと自慢に思っていること、それは食べものがおいしいこと（第36回新潟市市政調査）。この自慢を目に見える形であらわした展示や、ふだんの食生活の見直しなど、「なんなく」を遊びに変えてくれる工夫が随所にある当センターの食育コーナー。なかでも人気は、食事バランスをチェックしてくれるシステム。棚にある食品サンプル（これがたいへん美味しい）から、自分なりにメニューを選んでトレイに載せると、摂取エネルギーを教えてくれる。トースト、ミルク、いちごでチェックし

新潟ぶらり



▲隣のガーデンでは、夜間にサマーイルミネーションを開催している。有料（高校生以上500円、小中学生300円）。9/23まで開催。



▲花いっぱいの空間が、目だけでなく身体全体を包んでくれる幸福感がすばらしい。

※ 住 / 新潟市中央区清五郎401
9時～17時
8月30日までは18時まで 無料

アトリウムには、約6百鉢もの季節の鉢花の展示、新潟市産の花の紹介（チューリップだけではありません）。ユリも出荷が多い、園芸相談コーナーもあり、実際に頼れる施設。季節を楽しめる花育体験も充実している。ハーブや寄せ植えの講座、楽しそうだなあ……。

周りをみてみると、花に囲まれてひとりゆつたりとすごす初老の男性、料理体験に真剣な眼差しの少年、季節の花をみて一心にメモをとる若い女性、子どもそっちのけで自分の食事チェックに集中する保護者らしき男性……みんな、夢中になっている。それぞれ癒しと遊びのときをすごしている……。ほら、新潟つて結構いいところでしょう、と伝えたくなつてくる。（菅真理子）

てみた（今朝のごはんは野菜をとればよかつたのか……）。混雑していなければ、他のパターンも試したいところ。

新潟日報メディアシップ 5階
〒950-0088 新潟市中央区万代 3-1-1
TEL:025-250-7171 FAX:025-250-7040

にいがた 文化の記憶館 便り(3)

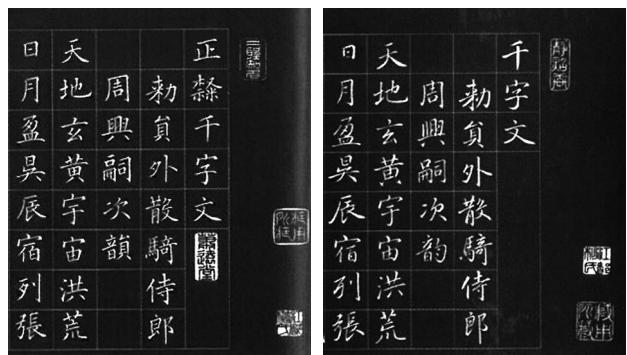
個性派の陰にかくれた

「幕末の三筆」

秋岡 啓子

「菱湖」^(りょうこ)という駒銘があります。美しく整った字体で、中原誠永世名人の好んだ駒として知られています。刻まれている文字は、江戸時代後期の書家・卷菱湖(1777~1843年)の字をもとにしています。卷菱湖は市河米庵、貫名菘翁と並んで「幕末の三筆」と称され、明治以降の書壇にも大きな影響を与えました。

菱湖は越後国卷(現在の新潟市西蒲区)に生まれ、幼少のころ寺の住職に書の手ほどきを受けました。18歳で江戸に出て、折衷学派の儒学者・亀田鵬斎に師事し、書法と漢詩を学びます。当時、ちょうど「寛政異学の禁」が発布されて朱子学以外の



▲卷菱湖 楷書・行書千字文(卷菱湖記念時代館)

儒学が冷遇されたため、書家として身を立てる道を選んだのです。はじめ印刷用版木の版下を書いていたところ、読みやすく整った文字が評判を呼んで、30歳で書塾「蕭遠堂」を開きます。菱湖は、篆書・隸書・楷書・行書・草書・仮名・飛白の七体を巧妙に書き分けることができ、習字手本は200種以上刊行されました。やがて弟子が1万人を超える、「江戸での書家の親玉」(『当世名家評判記』)と評されるようになりました。

現代とは違い、筆で字を書くことが身近な時代、「字は人を表す」ということがより顕著だったかもしれません。ちなみに菱湖の師である鵬斎は、越後を訪ねて良寛と親しく交際してその影響を受けたといわれ、「鵬斎は越後帰りで字がくねり」などと狂歌で揶揄されています。

新潟には良寛以来、會津八一へと受け継がれた個性的な文人の書の流れがありますが、一方、菱湖は正しい書体を徹底的に研究し、究極の文字を突きつめていったといえます。51歳のとき、すでに書家として名を成していた菱湖は上洛し、青蓮院や近衛家に伝わる日本・中国の名筆に接する機会を得ました。ここで書法の妙を悟ったといわれています。

明治に入つて、新政府は菱湖の字を官用標準書体に採用し、小学校の書道手本としました。また冒頭に述べた「菱湖」という駒銘が成立したのは大正時代です。伝説の棋士・坂田三吉の門弟で後援者だった大阪の高濱禎^(てい)が、菱湖の字を集めて駒字として作り替えたのです。たとえば「桂馬」の「桂」の字は手本になつたため、木偏と「佳」の字を合わせて作られました。こうして、菱湖の文字は今に伝わっています。

【企画展示情報】

- 同フロアにある新潟市會津八一記念館の特別展「書の美ヒストリア」の第2会場として、「新潟と東アジアの近現代の書」をテーマに展示しています。
- 会期:8/1(土)~9/9(水)、月曜休館(ただし9/7は開館)。
- 9/3(木)、4(金)は新潟市内で「書」についての本格的な国際シンポジウムを開催。一般来聴歓迎。お問い合わせは新潟市會津八一記念館まで。TEL 025(282)7612



▲卷菱湖

4月号からの新コーナー「食楽句 楽のすすめ」の執筆者・岩田桂さんは、岐阜県生まれ、新潟市在住の元大手企業の企画マン。畑を耕し、俳句の主宰をつとめ「食楽句 楽」を実践しつつ人生のセカンドステージを満喫されています。食と俳句とのコラボレーション、当意即妙のエッセイをご賞味ください。

潜水艦トマトを愛す

岩田 桂

美味しいトマトを選ぶ方法があります。企業秘密だけ、喋りますね。それは水に浮かべると沈むトマトが最高なんです。井戸の底に沈んでいたトマトのあれです。

しかし最近のトマトはどうやら水に浮いてしまうらしい。おいおい、本当かいなあ。信じられない。それが事実ならこれは許せないぞ。このことが騒動の発端になつて、トマト論争が勃発するではないか。事実、水に入れると沈まないトマトが多くあります。早採り流通のために比重が軽く、糖度も低いのが原因です。しかもそれが当たり前のトマトだと言いうから、ボクらは許せません。

そのボクらの嘆きに相応して、「本物のトマトは水に沈む」というプラカードを掲げた、強力な支援部隊が現われました。路地完熟栽培に目覚めた人達です。主婦連も関心を持ち始めたと聞きます。ミネラルが豊富な糖度の高いトマトの栽培に力を入れ始めました。

合言葉は「自分の家族に食わせる、水に沈むトマトを作ろう」です。この合言葉は実に正直です。納得します。そうではなくちゃ。これを「平成のトマト族の乱」と言います。不味いトマトは出てゆけーとうささやか運動です。この路地トマトは朝市などで出会えます。ああ、やっぱり、そのトマト様にお会いしたい。

手に探る井戸の底なるトマトかな

そう言えば、戦後の路地トマトのあの芳醇で甘い味は、一体何處に行ってしまったのか。誰もがそう思いつ、氣にもせずに長い時間を費やしてきました。婆さまが路傍の石に腰掛けて、大きな口を開けて

美味そうに食べていたつけ。あの、あの、路地トマトです。あの光景です。今やどこを探しても見当たらなくなつた。ハウスものばかりが幅をきかせるトマト界です。まあ、大量生産の時代だから仕方ないか。また川遊びには必ずと言つていいほど、トマトやウリ、スイカを子ども達は持参して、石で囲つた川縁で冷やしながら、おやつにしていました。泳ぎ疲れた身体には最高のおやつでした。

しかもまるかじりが最高です。たしかぶりつくとどうしても汁が顔面に滴るから、それをクリアードする技も必要です。それを教える役目が爺様や婆様です。彼らの指導は次のようでした。

* 上を向きながら、トマトに吸い付くようにゆっくりかぶりつき、少しひねりつつ汁を吸いながらゆくりトマトをひねること。



* ひねりつつ汁を吸いながら、トマトを口から離すこと。
* むしり取った果肉をすかさず噛みくだくこと。
* 食べ終わったら、目を閉じてしばし恍惚感に浸ること。

どうじや、丸かじりつて美味しいだろう……。おお、やるじゃないか、君たち。

上顎を出してトマトに食らひつく

ところでトマトは丸かじりにかぎるつて……。何故。その訳はですね、曲線の本体に吸い付くことによつて、唇にも本能の欲びと機会を与えてあげることができるからです。

チュウチュウと吸う行動と快感は、そうです、あのおっぱいを吸つたあの感覚に直結していく、恥ずかしくらいにたまらないのです。艶めかしい潜在的な快感とでも言えばいいでしょう。だから遠慮なく吸い付く丸かじりがたまらない。なるほど、なるほど、そうだったのか……。

しかもですね、当時はですね、子どものトマト泥

棒やウリ、柿泥棒などを大人たちは大目に見ていましたね。将来を背負う子供たちが、腹をこしらえているんだと言う、天下国家の認識があつた訳です。トマト泥棒ぐらいで、彼らの将来に傷をつけではないかん、という大人の共通の思慮遠慮がありました。そんな世の中が実に懐かしく愛しい。

トマト盗人捕らえてみれば好きな人

しかし最近、子供がトマト泥棒で捕まつたという記事を見たことがない。柿泥棒も然り。ガキ大将を中心にまとまつていて子ども世界が、縮こまつてしまつたのでしょうか。このままで日本はいいのか。

されどトマトにはこんな応援歌がありますよ。「とーまと、つてカワイイなまえだね、うえからよんでもと・ま・と したからよんでも と・ま・とつゝ」。おお、まんざらトマトも孤独じやない。萎縮もしていない。

さあ、みなさん、トマトを買う時は水に入れて確かめてください。潜水艦みたいに沈むトマトを買うのですよ、いいですか。スーパーにバケツを持参する気合いで臨んでください(無理か)。

さすれば路地トマトに出会えるかも知れませんよ。これを消費者貿易人会では、「トマトの潜水艦作戦」と呼んでいます。

あの穏やかな曲線の真っ赤なトマト。太陽の子分のような貌をしたトマト。農家が家族専用に栽培する路地トマト。あとは冷やしてかぶりつくだけでシテアワセ。

そう言えばフルーツトマトって言う品種を店頭で見かけたつけ。品名は「節子のトマト」つていう愛妻ブランドでした。参るなあー、自分の奥さんの名前を勝手に付けるなんて……。でもいいか、許してあげよう。トマトは野菜だが、フルーツの仲間に入れても決して引けを取らない自信があるのだろうからね。ウツ、うまそうだ。丸かじりするか……。

愛妻の味がするなり路地トマト

没後30年記念・方代忌のご案内

望郷の歌人山崎方代没後30年を記念して、法要ならびに記念講演会が実施されます。

- 日時：平成27年8月22日（土）
- 場所：七覚山円楽寺（山梨県甲府市右左口町4104）
- 日程：受付9:30～ 法要10:00～ 式典10:25～
朗読10:55～ 隨筆『ホーダイさんの食卓』
記念講演11:20～「山崎方代と女性たち」講師田澤拓也
- 問い合わせ：実行委員会事務局 棚原豊明 090-7417-2423

「ご縁ブック2015」「2016年手帖」のご注文用紙を同封しました！

皆さまに日頃の感謝の気持ちをお伝えしたいと2004年より制作している、お客様の俳句、短歌、川柳を収録した合同作品集『ご縁ブック』。今年はちょうどひと回りの12冊目。昨年と同様の素敵な装丁での色違いです。ふるってご投稿ください！

また、『2016年手帖』は365日を明るく彩ってほしい！と表紙は布張りに箔押し、中身もカラフルに仕上がる予定です。完全受注生産ですので、お早めにご注文を！

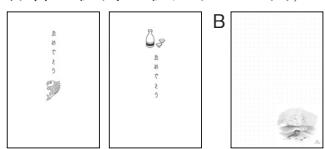


オリジナルポストカード2種を好評発売中！

ご好評をいただいている当社オリジナルポストカード。同封のアンケート用紙にご希望の種類、セット数を明記のうえ、必要金額分の切手を同封のうえ封書にてお申し込みください。

A 活版印刷（おめでとう：鯛・とつくり各3枚計6枚入り1000円）

B 季節のポストカード
(今回は夏バージョンより
「入道雲」を同封)
8枚入り500円



第22回夢二忌俳句大会

絵画や詩歌、俳句にもその才能を遺憾なく發揮した竹下夢二の命日にちなんで、標記大会が行われます。

- 作 品：平成27年9月1日（火）9:00 受付開始、正午投句締切 13:00 句会開始（嘱目3句）
- 句会費：3,000円
- 会 場：群馬県伊香保 ホテル天坊
- 吟 行：バスツアー 3,000円
榛名湖周辺を吟行 11:30 会場へ
- 選 者：雨宮きぬよ・雨宮抱星・稻畑廣太郎・井上弘美・神野紗希・小暮陶句郎・小林敏郎・高橋洋一・吉田未灰
- 問い合わせ：夢二俳句大会実行委員会
電話 0279（20）3555

「古事記」編纂1300年記念 第17回隱岐後鳥羽院俳句大賞

承久の乱に敗れ流された隱岐島で多くの和歌を残した後鳥羽上皇をしのんで、標記大会が開催されます。

- 作 品：未発表の作品、題は「隱岐島」その他島に関するもの、自由詠3句1組
- 応 募：2000円（1組につき）
- 用 紙：所定の応募用紙または200字詰原稿用紙に楷書で作品、郵便番号、住所、氏名（俳号も）、年齢、性別、電話番号を記入
- 締 切：平成27年11月30日（月）
- 選 者：石寒太、稻畑汀子、宇多喜代子、小澤實
- 送付先：〒664-0842 兵庫県伊丹市森本4-186
- 問い合わせ：後鳥羽院顕彰事業事務局
08514-2-0101

スタッフの一言

Q. 夏休みの宿題の思い出は？ ※すいかの折り紙と

木戸 敦子



小5夏休み最終日。全く手つかずの自由研究。何に漬けたらリンゴの変色はマシ？に挑戦するが夏にリンゴではなく桃でトライ！剥く段階からぶつけていたり力を入れて剥いたりで実験前に変色済。正確な結果はなく一部捏造！？

古川 久美子



とりあえず、宿題は「やる派」でした。高校生の頃は、宿題に答えがついていたので、答え丸写し、とかもやつたりやらなかつたり！？

菅 真理子



高校の夏休み。美術や音楽選択の子たちが夏休みを謳歌する一方、書道選択の私たちには、コンクール作品の提出が待っていた。風が吹くと紙が浮いてしまうので窓も開けられず、汗がぼたぼたと…。

山田 千秋



夏休みというものは、7月は大事に過ごして一日の時間もとでも長く、宿題を計画通り進めることができたのですが8月に入った途端、どういうわけか早く時間が過ぎてしま…。気がついた時には終り近く。残っている宿題を大急ぎでしていました。

木伏 芙美恵



小学校6年生だったと思いますが、約1センチ幅のノートを1冊渡され、自由に使うという宿題。日記、漢字の練習、計算問題、自由研究の結果、読書感想文などでした。今も保管しているので見てみようかな。

上村 真智子



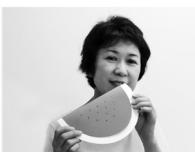
私の子供の頃は夏休み帳が数国社理と4冊あり、あらかじめ友達と得意な科目的担当を決めておき、8月25日になると集まり、苦手科目を必死に写しあいました。そのせいで、今でも漢字が苦手。

金子 ゆり子



小学生・中学生は田舎の学校なので1クラスが14名くらいでした。小学生の夏休みは6年生になると先生になり、6年生が下級生の勉強を見てあげていました。低学年のときは早く6年生にならないかと楽しみにしていました。

石山 由希子



終わらなくて31日深夜に泣いた祭でした。8月25日、地元のお祭りが終わると新学期も近い…身体は遊んでいても心は虚ろ。ところで夏休みの宿題って小学校の思い出がほとんど。中学からはあまり覚えてないのは私だけ？

吉田 瞳



自由研究で町内の地上消火栓の数を数え、その使い道?などをスターにまとめて発表しに行きました。夏休み真っ只中の息子がまさにこれをやろうとしている…水道屋の祖父に言われて…。私もそうだったのか!?!?



8月で4歳になります！
身長100cm 体重15kgになりました♡



トクさんのこと

一人旅が好きになつたのは、病気のおかげだった。

二十代の後半に、仕事のストレスでいきなり体中の肌がひどく荒れて、皮膚科に行つても治らなくなつた。二十年近く前のことだ。上司に相談してしばらく会社を休むことになつたが、それでも治らない。結局会社を辞め、細々とアルバイトをしながら暮らしているうちに、母が皮膚炎によく効くという温泉を雑誌で探してきたのだった。

長野県の北部の山中にある小さな温泉宿に泊まつたのが、初めての一人旅だった。周辺には山林以外に何もない。最寄駅まで行くバスは数時間に一本だった。夜になるとあたりは漆黒の闇。都会暮らしの私には、過ごしにくい場所に思えた。病気のせいもあってひどく心細く、当時の恋人に毎晩電話して、電話代が宿代より高くなつてしまつた。

かくま
角間温泉の湯は私の体に合つていたようで、滞在してまもなく皮膚炎はきれいに消えた。だが東京に帰るとまた悪化するので、月のうち十日ほど温泉に泊まるという療養生活をしばらく続けた。慣れてくると、山という大きくて動かないもののそばで過ごすことが、自分の心身の安定にとてもいいこともわかつてきただ。

宿には私以外にも、一人で長逗留する常連のおばあさんが何人かいた。みなご主人をとうに亡くされた独り身の方々だった。軽い不調を温泉で癒しがてら、のんびり過ごしに来ているようだつた。

温泉に浸かりながら長々と自らの人生を語る、トクさん

錦見映理子

前回まで「執筆いただいた日黒哲郎様いわく「最前线の短歌シーンで活躍している錦見さん。作品には決して軸のぶれない信念をお持ちであることを感じます」。今後三回のエッセイをご堪能ください。

というおばあさんがいた。子供時代に過ごした大きな家が戦後だんだん没落していくたとい個の個人史を、湯船に足を浸しながら二時間以上聞いていたこともあつた。トクさんはお湯からあがるといつも、脱衣場にあつた籐製の椅子に小さな体をすっぽり嵌めるように座つて、しばらく休んだ。そして背を向けて着替える私の裸を見ながら「キレイな体だねえ」と何度も言つた。皮膚炎で荒れて汚いのに。きっと年のせいで目がよく見えないんだな、と思つてた。

最後に滞在したとき、帰る前に彼女の部屋を訪ねた。皮膚はすっかり治つてた。たぶんしばらく来ません、と言つた私の手をトクさんはいきなりぎゅっと握り、「幸せにならない」と言つた。骨張つていて、でも柔らかい手だつた。私は面食らい、ただ笑つて領いただけだつたような気がする。トクさんは自分を語るばかりで私には何も聞かなかつたから、私は病気のことも含めて個人的なことは何一つ言わなかつた。でも今思えば、トクさんが檜の湯船のへりに座つて毎日長々と来歴を語つてくれたのは、自分を追いつめやすい性格の結果、皮膚炎になつてそれが治らないことをまた思いつめいたあのときの私を、励まそうとしていたのかも知れなかつた。

私は、孤独で暇を持て余しているおばあさんの話相手をしてあげているつもりだつた。でも、たぶん、逆だつたのだ。

泣けてくる春まだ寒い洗ひ場に茶漉しのやうにわたし
まじめで

河野美砂子『ゼクエンツ』

2015.8.vol.81 (2015年8月10日発行／隔月発行)

●発行・印刷／株式会社ミューズ・コーポレーション

喜怒哀楽書房  〒950-0801 新潟市東区津島屋7-29
TEL 025-250-9555 FAX 025-250-9550
e-mail odp@eseihon.com / HP http://www.eseihon.com

郵便局口座番号 00530-4-81370 口座名 株式会社 ミューズ・コーポレーション

編後記

P4の朝倉さんとはかれこれ15年以上のおつきあい。師が言ったという言葉「生活を決してバカにするんじゃないよ」に日々を省みる。クルクルと回し車を押すハムスターのような日常だが、本當はもっと丁寧に毎日を送りたい。衣食住、ささやかでもそこかしこに人の手が感じられる生活を送りたい。「すべての時が詩になる美しい時」。誰もが平等に与えられているはず。心持ち次第で何とかできるのだろうか。振り返ったとき、ハムスターの後ろにはどんな道が出来ているのか。毎日確実にしていること。今日もビールを飲みながら考えてみようか。この酷暑の夏に。(木戸敦子)